

アカゲラ通信

2019年12月号
(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所



第2駐車場は冬期間閉鎖です

旭山記念公園第2駐車場(門から近い方)は冬期間閉鎖しています。

中央区の除雪車両の基地となるためですが、除雪車両の出入りの妨げとなるため、入口を塞ぐかたちでの駐車もご遠慮ください。よろしくお願ひします。

北海道「市町村の鳥」

日本ではすべての都道府県や多くの市町村でシンボルとなる鳥や花や木を定めています。

都道府県や市町村のシンボルを見ると、その地域の自然や人々の様子を垣間見ることができます。

北海道では、全 179 市町村のうちシンボルの「鳥」を制定しているのは 64 市町村、およそ 1/3。

花は 176、木は 174 市町村とほとんどが制定しており、それに比べると鳥は少ないです。

今回は、北海道内市町村のシンボルとして制定されている鳥を、多い順に挙げてゆきます。

なお、ひらがな表記のものは特定の種名ではなくその仲間の総称を表し、その中で種名が決められている市町村については()内に付記します。

1位 カツコウ=9 市町:札幌、深川、長沼、雄武、士幌、上士幌、鹿追、芽室、陸別

2位 かもめ=7 町:寿都、森、せたな、増毛(ウミネコ)、枝幸、広尾、厚岸(オオセグロカモメ)

3位 アカゲラ=6 市町:ニセコ、仁木、平取、名寄、幌加内、本別

4位 はくちょう=5 市町:浜頓別(コハクチョウ)、幕別(オオハクチョウ)、弟子屈、根室、別海

5位 ヒバリ=4 市町村:東神楽、帶広、中札内、大樹

6位 コマドリ=3 町:礼文、利尻(リシリコマドリ)、利尻富士(リシリコマドリ)

ウグイス=3 市町:歌志内、厚真、清水

8位 はと=2 市:岩見沢、小樽(アオバト)

ヤマガラ=2 市:赤平、函館

フクロウ=2 町村:新篠津、釧路町

オジロワシ=2 町:斜里、羅臼

ウミネコ(左)

エゾライチョウ=2 町:新得、足寄

アカゲラ(右)

クマゲラ=2 市町:富良野、置戸



1 市町村の鳥 アオサギ=浦幌 エトピリカ=浜中 オオワシ=八雲 カワセミ=恵庭 キレンジャク=旭川

コガラ=天塩 シジュウカラ=芦別 たか=知内 タンチョウ=鶴居 ハクセキレイ=三笠

ヒガラ=室蘭 ブッポウソウ=音威子府 マガソ=美唄 ヤマセミ=千歳

全 27 種のうち旭山で観察記録があるのは 20 種です(かもめ、はくちょう、たかをそれぞれ 1 種と数えて)。

カツコウが 1 位ですが、その声が広く知られていてシンボルとしても分かりやすいのでしょう。

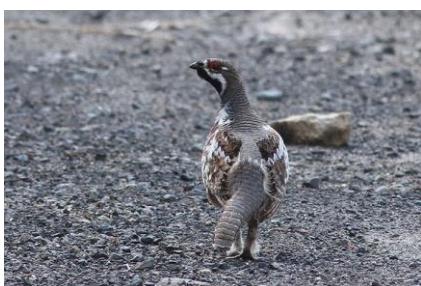
一方で、タンチョウが 1、シマフクロウは 0 というのは意外といえば意外かもしません。

当方で勝手に(?)旭山のシンボルとしているアカゲラは 6 市町で 3 位と人気があるようです。

なお、「リシリコマドリ」とは、その昔、野鳥を飼育して(今は違法)鳴き声を楽しんでいた人たちがいましたが、利尻島産のコマドリは特に鳴き声がきれいだとして愛でられていたことによりつけられたいわば「愛称」であって、生物学的には普通のコマドリと同じ種です。

シンボルの鳥は、札幌市のマンホールのふた、清水町のゆるキャラ「うっちゃん」、美唄市や浜頓別町、浦幌町のカントリーサイン、千歳市や新得町の交通安全の旗など、身の回りでも目にする機会があります。

ただ、羽幌町のウミガラス(オロロン鳥)、黒松内町のクマゲラのように、カントリーサインに使われていても公式のシンボルには制定されていない場合もあります。



エンライチョウ

お気に入りの鳥は入っていましたか？ ドライブや旅行でシンボルの鳥を見つけるとまた楽しいですね。

旭山野鳥メモ ⑩ベニヒワ

ベニヒワ Common Redpole *Carduelis flammea* スズメ目アトリ科

この冬は今のところベニヒワが園内で観察されている。

ベニヒワは冬鳥だが、年により見られたり見られなかつたり。

秋に北から渡って来、数日ででなくなる年もあれば、春先まで越冬する年もある。まったく来ない年もあり、すべては繁殖地の餌事情しだい。

越冬する年は園内を採餌で飛び回っていて、ほぼ必ず毎日見られる。

飛びながら「チュリーン」と鳴く声はスズメに似てなくもない。

冬の間の山は色彩が乏しいため、頭頂部に「日の丸」、紅色の羽を持つ

ベニヒワは人気がある。雄はさらに胸も紅く、夏羽になると下腹部まで紅く染まる。春に見られることがある。

英名の”pole”は「北極」の極の意味、「紅い極」とはうまくつけたものだ。ついでにいえば「日の丸」を掲げる「ポール」にもなっている、これは偶然だが。

日本名の「紅鶲」も、「アカ」ではなく「ベニ」としたのが趣があってよい。

本州では北部に少数が現れるだけで、本州の愛鳥家が北海道でぜひ見たい鳥にもよく挙げられるという。

そんな鳥が旭山では日常的に見られるのはありがたい。はたして、春先まで越冬してくれるかどうか。



12月の野鳥トピックス

野鳥についての詳しい情報はホームページの野鳥情報をご覧いただけ、森の家までおたずねください。



★ヒレンジャク、キレンジャク=11月からヒレンジャクの群れがよく見られ、キレンジャクも今年はそこに数羽混じってたり単独で数羽見られたりです。

★イスカ=11月中は1羽から4羽が毎日のように見られました。

★ウソ=鳴き声はよく聞こえますが、近くではなかなか見られません。

★ベニヒワ=園内で群れがときどき見られますが、越冬する場合は

この先近くで見られる機会が増える可能性があります。

★キバシリ(右写真)=今年は見られる機会が多いです。

★キクイタダキ=見られる機会が増えており、昨冬はほぼ毎日見られましたが、今年も見られそうです。

★クマゲラ=園内でも時々近くで観察できます。★オオアカゲラ=見られる機会が多くなってきました。

★ヤマゲラ=こちらもほぼ毎日園内どこかで声が聞かれたりしています。

★シマエナガ=11月後半からは風の丘からつり橋にかけての辺りで見られる機会が多いです。

木に名札をかけてゆきます

旭山記念公園では、木に名札をかけてゆきます。

11月、バーニングペンで文字を書いた木の名札を作成するイベントを行い、園内数カ所で計10本以上の木に新たに名札をかけました。

また、地元の小学生が中心となった「森の探検隊」でも、「巨木の谷」にある一部の木に名札をかける活動を行います。

散策しながら木の名前がわかるといいね、という声は以前からありました、これから少しずつ木の名札が増えてゆきます。

木の名札を作るイベントは、2020年春から初夏にも予定しています。近くになりましたらまたご案内します。



2019年11月に作成した木の名札の一部

編集後記

冬は雪の上に1cmにも満たない「小鳥」が現れます。正体はシラカンバの種子の殻。マヒワやベニヒワが集団で飛んで来てシラカンバの種子を食べると、その辺りの雪の上に散らばるシラカンバの種子の殻は、まるで鳥が翼を広げて飛んでいるよう。「小さな雪の上の鳥」探しはいかがですか？ ただ、雪が降ると消えますよ。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第75号 2019(令和元)年12月13日発行

発行：(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

住所：〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

連絡先：電話011-200-0311(土・日・祝日10時～16時) FAX011-200-0351

<http://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/>